

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

● 消耗品、交換部品の確認

△注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。
-----	---

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。
新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。

消耗品・交換部品

品名	交換時期
駆動輪	タイヤの表面に溝がなくなったとき。
キャスター	表面の摩耗が著しいとき。 しっかりと締め付けても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき。

● 駐車用ブレーキの作動確認

ブレーキレバーを操作し、ブレーキがかかることを確認してください。

● 各調節部分が固定されていることの確認

各調節部分をチェックし、確実に固定されていることを確認してください。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- 水などがかった場合は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● アームサポート・グリップ等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

- △注意
- シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。
 - 車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干してください。

● 保管・収納について

- 収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- 鍔やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所、直射日光の当たる場所には保管しないでください。

アフターサービス

- 万一故障の場合は、お買上げの販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況をご連絡ください。
- 保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

保証

- 保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- 保証期間終了後の修理については、お買上げの販売店、または弊社へお申しつけください。
修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。

本製品の廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元

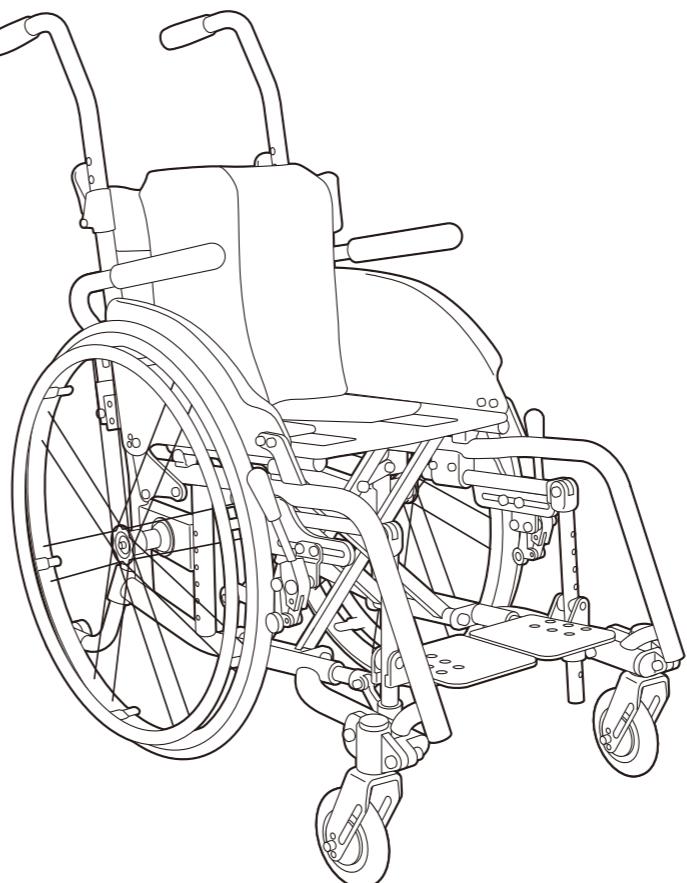
Wheel Chair
Miki
株式会社 ミキ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号

2206-004JRP

ノーヴァジュニア プラス NOVAjr. Plus+

取扱説明書



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。

ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。

※本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

FORCE
MASTER OF WHEELCHAIR
POWERED BY MIKI

目次

使用目的・特徴	2
安全上のご注意	2
本製品について	4
おもな機能と特長	4
各部のなまえ	5
使いかた	6
ブレーキのかけかた	6
車いすの開きかた／たたみかた	7
各部の調節のしかた	8
ブレーキの調節	8
パイプアームサポートの高さ調節	8
座面の高さおよび 駆動輪の前後位置調節	8
フットサポートの高さ・前後位置・ 角度調節	12
バックサポート(背もたれ)の 角度調節	13
転倒防止バーの位置調節	14
バックサポート(背もたれ)の 張り具合調節	15
使用上のご注意	15
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙

使用目的・特徴

本製品は、一人乗り用・手動式車いすです。

本製品に搭乗しての移動と、本製品に座しての休息を使用目的としています。

本製品は、使用者がハンドリムを操作して駆動する手動式の自走用標準型車いすです。日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ・入浴など）のものではありません。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

！危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。

！警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。

！注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】

！ 警告・注意を促す内容があることを告げるものです。

○ 禁止の行為であることを告げるものです。

！ 行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

！危険

スピードを出さないでください。



スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。

坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

下り坂ではハンドリムを使ってスピードを落とし、ゆっくり走行してください。

下り坂で介助をしてもらうときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。介助ブレーキがある場合は、ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。

エスカレーター（車いす対応エスカレーター除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）でのご使用は絶対に行わないでください。

転落や転倒など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターをご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。

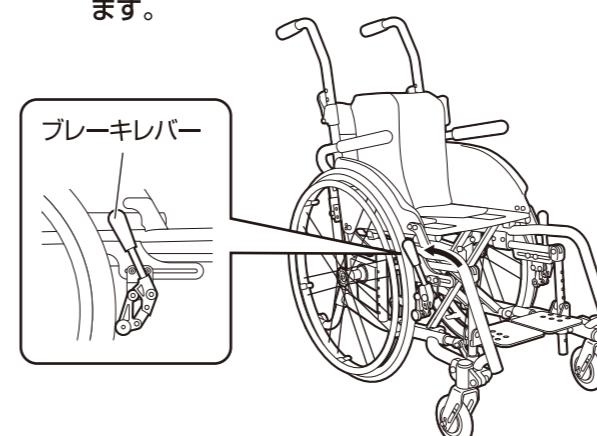
！警告

乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。

ブレーキがかからっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。

レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



前かがみの状態など、車いす前方向へのみ体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前方へ転倒する恐れがあります。

走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。

転倒などの事故につながる恐れがあります。

乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないように注意してください。

けがをする恐れがあります。

座高および駆動輪の前後位置調節は、販売店へご依頼ください。

使用者を乗せたまま車いすを持ち上げるとときは、必ずブレーキをかけて駆動輪とフレームを持ってください。

駆動輪とフレーム以外の部品を持つと、使用者の重みで部品が外れて使用者の転倒または落下などの、事故やけがにつながる恐れがあります。

各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。

車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

乗り降りは、必ず平坦なところで行ってください。

タイヤの空気圧低下に注意し、必要な場合は補充してください。

タイヤの空気圧が低下すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。また、空気圧が低下した状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。

[着脱式車輪をご使用の場合]

駆動輪が抜けないようにしっかりとロックしてご使用ください。駆動輪の差しこみが不十分な場合、車輪のロック機構が働かず、走行中に外れて事故につながる危険性があります。車いすをお使いになる際は、駆動輪の中央を手で引っ張っても抜けないか確認してからご使用ください。

車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。

製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

！注意

この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。

暖房器具にタイヤを近づけないでください。

タイヤの空気が膨張し、大きな音をたててパンクすることがあります。破損した場合は、乗車をやめて必ず修理してください。



各部のなまえ

△注意

操作中に異常な音や振動が発生したら、即時
に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。

使用する前に駆動輪・キャスター・駐車用ブ
レーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるとき
は増し締めをしてください。
ゆるんだ状態で使用されると、部品のガタ
つきや脱落などの原因となり事故やけがに
つながる恐れがあります。

フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利
用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性
や静電気の影響などによってシート生地に
毛羽が付着することがあります。衣類用ブラシ
などで付着した毛羽を取り除くか、市販の静電
気防止スプレーを使用するなどしてください。

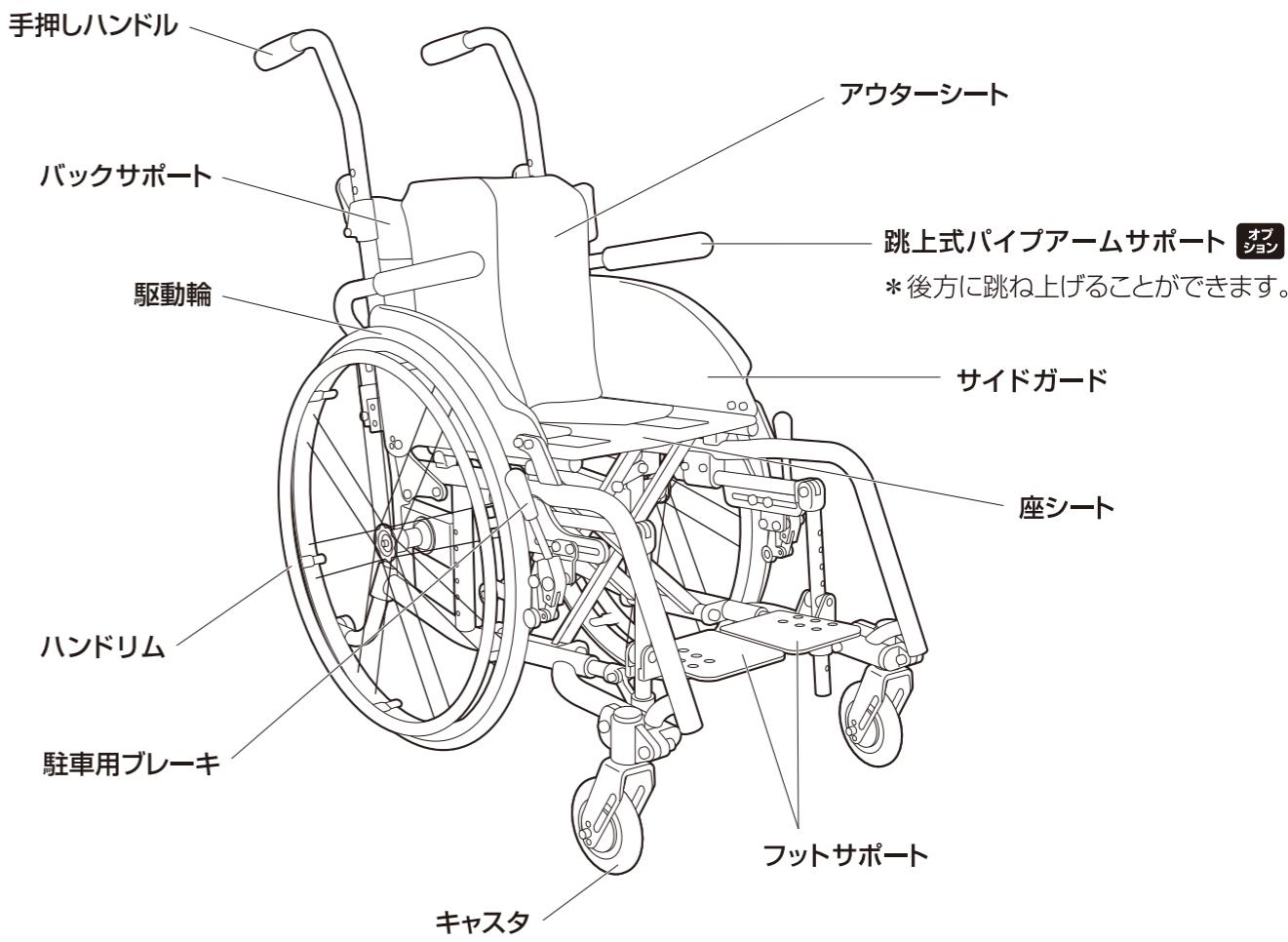
段差のあるところを上り下りしたり、斜面に
進入するときは、車いすに衝撃を与えないよ
うに、ゆっくり操作してください。
車いすの破損や故障の原因となります。

車いすを自動車に載せる際および自動車か
ら降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えない
よう、ゆっくりと静かに行ってください。
車いすの破損や故障の原因となります。

シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しない
でください。
製品を傷める恐れがあります。

座シートやアームサポートのパ
イプを握って車いすの開閉操作
を絶対に行わないでください。
手指や爪、衣服が巻き込まれて
けがをする恐れがあります。

△注意 各部の調節は販売店へご依頼ください。

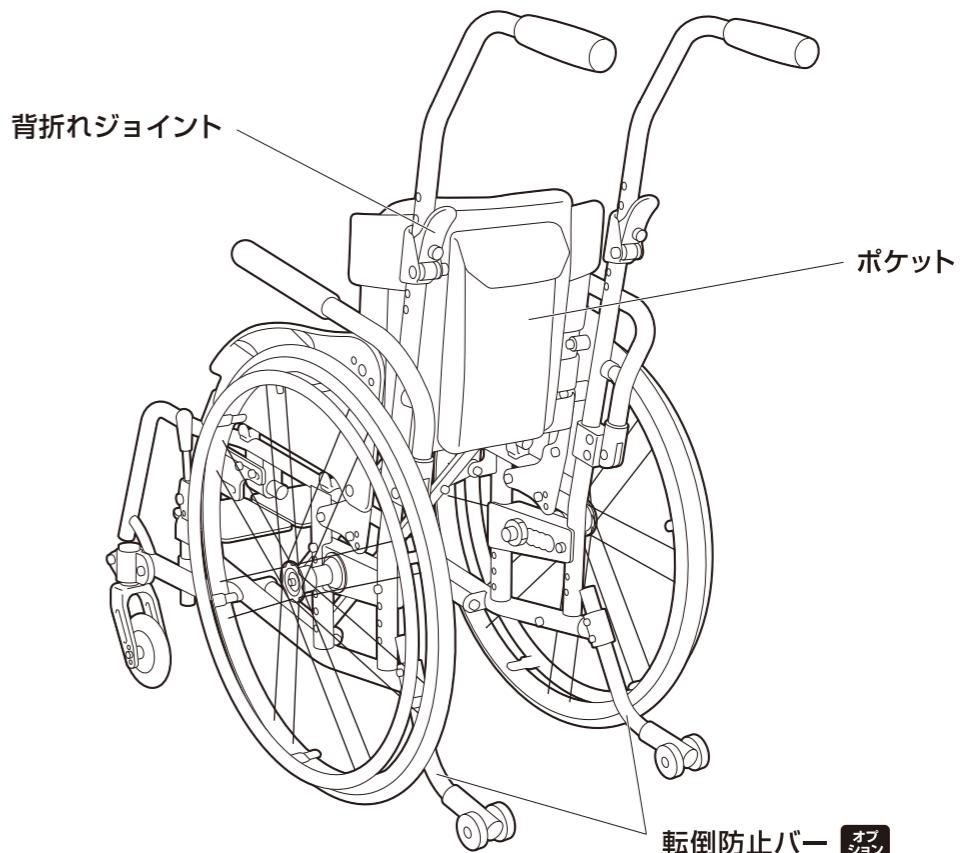


本製品について

本製品は、標準機能の他に、必要に応じてお選びいただけるオプション機能を用意しております。オプション機能は本製品をご注文時にお選びいただきますので、お車ごとに装備内容が異なります。
本取扱説明書では、オプション機能についての記載内容に [オプション] マークを付けています。ご自分の車いすに装備されたオプション機能をご確認の上、必要な箇所をお読みください。

おもな機能と特長

- シーティング機能
バックサポートの張り具合を体型に合わせて調節することができます。
- モジュール機能
座面の高さおよび角度、駆動輪の前後位置をお好みに合わせて調節することができます。
- 跳上式パイプアームサポート(オプション)
パイプアームサポートは高さ調節が可能です。また、不要時には後方に跳ね上げができるため、ハンドリムの操作等がスムーズに行なえます。
- フットサポートにマルチスライドシステムを採用
ステップの前後位置と角度が無段階に調節できますので、使用者の足の位置を常に最適な状態に保つことができます。



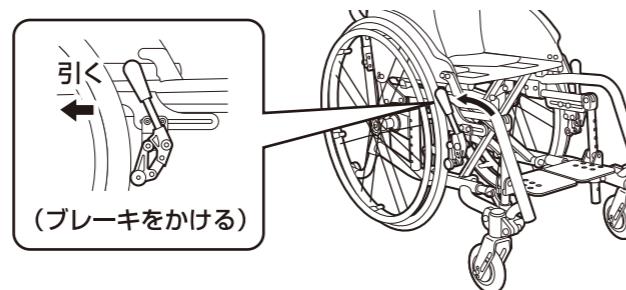
使いかた

ブレーキのかけかた

△警告	<ul style="list-style-type: none"> 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかるといないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。 乗り降りの際には駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜がある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。 タイヤの空気圧低下に注意してください。空気圧が低いと、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調節してください。それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

● 駐車用ブレーキのかけかた

使用者もしくは介助者が、左右の駐車用ブレーキレバーを手前に引いてかけます。
駐車用ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



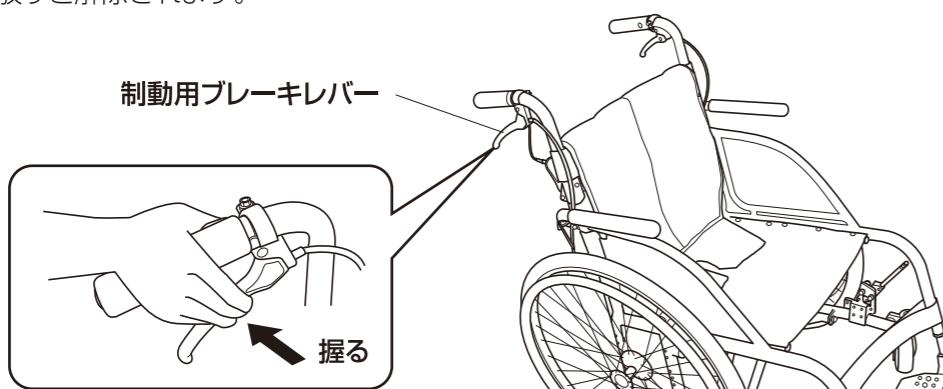
● 制動用ブレーキのかけかた オプション

△危険	<ul style="list-style-type: none"> スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。 急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。 また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。 雨の日など路面、タイヤが濡れている状態では、本来の制動力を得られないことがあります。 充分に注意したうえで操作してください。

△警告 制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。
転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

△注意 ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。（交換の目安：1年に1度）

介助者が、左右の手押しハンドル下にある黒色の制動用ブレーキレバーを左右同時に握ってかけます。
ブレーキレバーを放すと解除されます。



車いすの開きかた／たたみかた

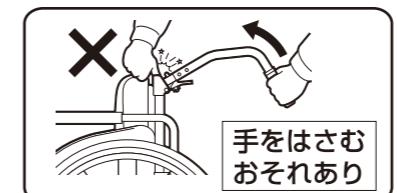
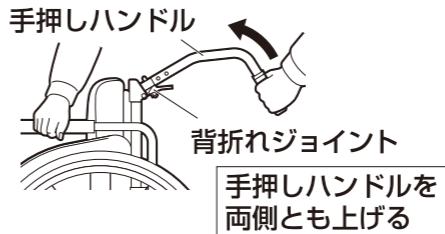
△注意	<ul style="list-style-type: none"> 座シートやアームサポートのパイプを握って車いすの開閉操作を絶対に行わないでください。 手指や爪、衣服が巻き込まれてけがをする恐れがあります。 必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。 背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。 車いすを開くときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。 背折れジョイントを上げる際は、開口部にシートを巻き込まないよう注意してください。ジョイントが完全にロックされない恐れがあります。また、シートの破損につながる恐れがあります。 後方へ進行や旋回をするときに、背折れジョイントが障害物に当たらないように注意してください。 背折れジョイントのロックが外れて後方で姿勢をくずす恐れがあります。

● 開きかた

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 手押しハンドルを両側とも上げます。

- * 背折れジョイントが完全にロックされるまで上げてください。
- * このとき、背折れジョイントに手や指を近づけないでください。手や指をはさんでけがをする恐れがあります。

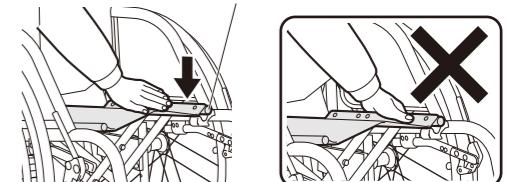


3 手押しハンドルを持って、軽く左右に開きます。

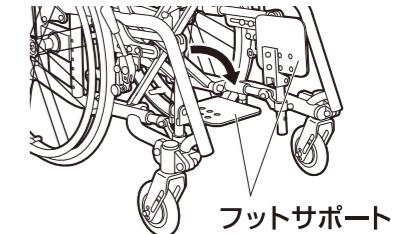
4 シートパイプを手の平で押し下げます。

- * シートパイプを握らないでください。
- * 片側の車輪を少し浮かせた状態で開くと、スムーズに開きます。

シートパイプ



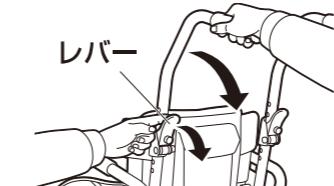
5 フットサポートを下げます。



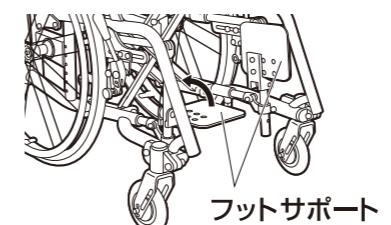
● たたみかた

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

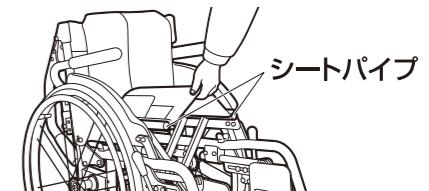
2 レバーを引いて、手押しハンドルを両側とも下げます。



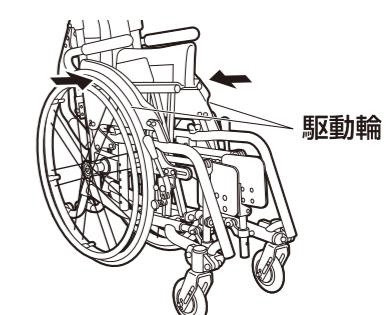
3 両側のフットサポートをはね上げます。



4 座シートの前端を持ち上げ、シートパイプを引き寄せます。



5 駆動輪を両側から押し、座シートを折りたたみます。



各部の調節のしかた

△警告 各部の調節は必ず駐車ブレーキをかけてから、平坦な場所で行ってください。

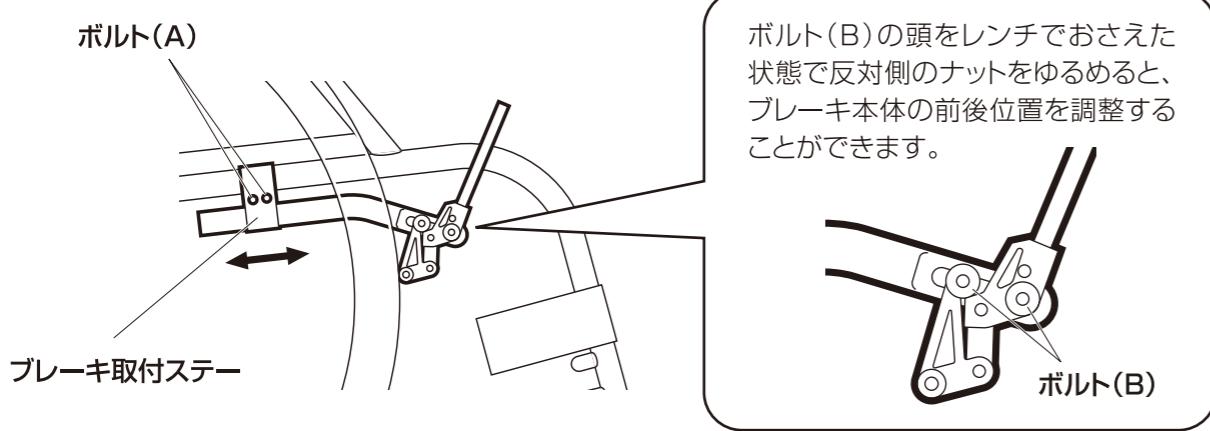
ブレーキの調節

駐車ブレーキのかかり具合が悪いと、立ち上がり時やベッドなどに移るときに大変危険です。

ブレーキは隨時チェックし、下記方法に従って調節してください。

*また、座面の高さや後車輪の前後位置を調節したときは、必ず駐車ブレーキの取付位置を調節してください。

- 1 タイヤの空気圧が適正か確認します。
- 2 ブレーキをかけた状態で車輪を手で回します。手で回るようなら、ブレーキのかかりが悪いので以下の方法で調節します。
- 3 ボルト(A)を、レンチを使用してゆるめます。
- 4 ブレーキ取付ステーを前後にスライドさせ、適当な位置でボルト(A)を軽く締め、仮固定します。
- 5 ブレーキのかかり具合を確認します。かかりが良ければ、ボルト(A)をしっかりと締め本固定します。かかりが悪ければ、手順4~5を繰り返します。
*上記の調節のみで不十分な場合は、(下図C)の方法で調節します。
- 6 同様に、反対側のブレーキの確認・調節をします。



パイプアームサポートの高さ調節

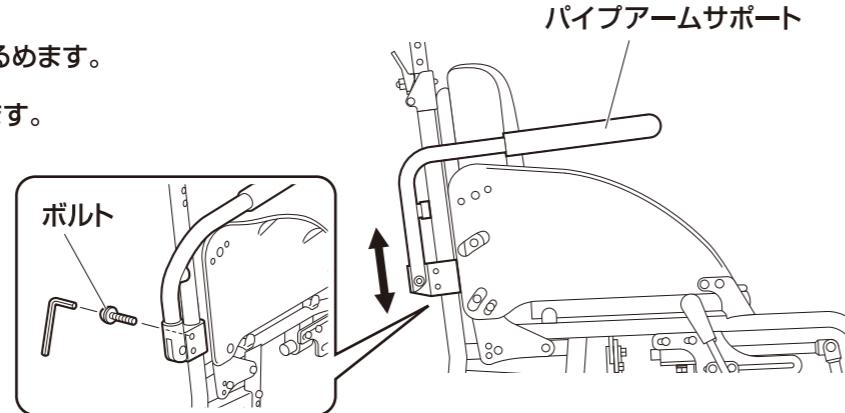
使用者の身長やお使いのクッションに合わせて、パイプアームサポートの高さを調節してください。

△注意

- ・高さ調節をした後は、必ず固定されたことを確認してください。
- ・パイプアームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。

- 1 兩輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 ボルト(2本)をレンチなどで回してゆるめます。
- 3 パイプアームサポートの高さを調節します。
- 4 ボルト(2本)をしっかりと締めます。

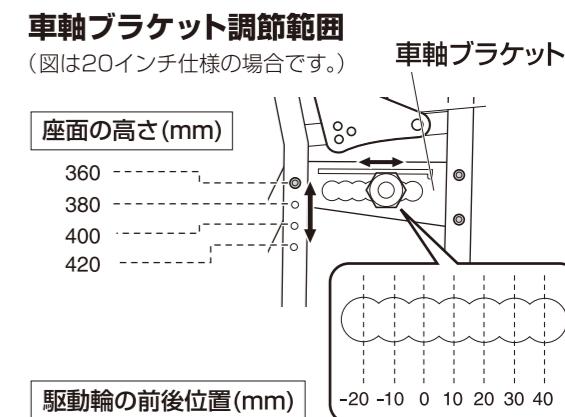
*反対側も同じ高さに調節してください。
*調節後、パイプアームサポートがしっかりと固定されていることを確認してください。



座面の高さおよび駆動輪の前後位置調節

車軸ブラケットの取り付け位置を変えることで、座面の高さを4段階に調節することができます。また駆動輪の前後位置を変えることで、前後車輪間の距離を調節することができます。

- ・座面の高さを変更したら、同時にキャスターと駐車ブレーキの調整が必要になります。
- ・駆動輪の前後位置を変更したら、同時に駐車ブレーキの調整が必要になります。
- ・車軸ブラケットとキャスターは、左右とも同じく調節してください。



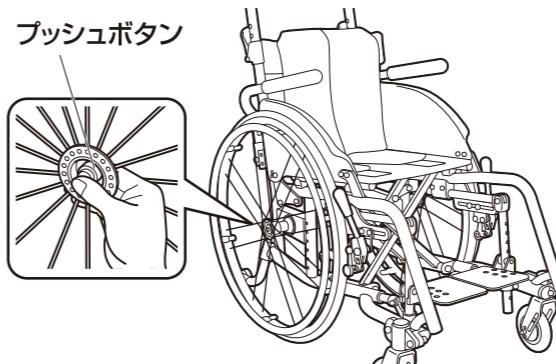
△危険

- ・使用者を乗せたまま調節を行うのは、絶対におやめください。
- ・駆動輪を前寄りに設定すると、操作はしやすくなりますが、バランスが損なわれ後方に転倒しやすくなります。使用状況を十分に考慮した上で調節してください。

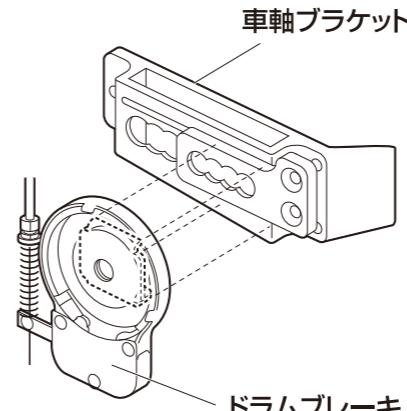
△注意 座面の高さおよび駆動輪の前後位置調節は、販売店にご依頼ください。

● 座面の高さを変える

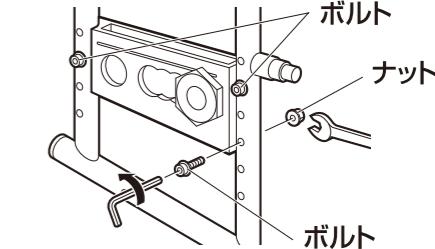
- 1 ブレーキを解除します。
- 2 車軸中心のプッシュボタンを押しながら、車軸ごと駆動輪を引き抜きます。



- 3 ドラムブレーキ装着車の場合は、ドラムブレーキを取り外します。



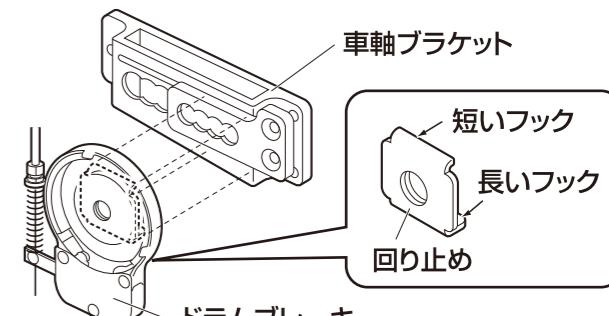
- 4 ボルト(3本)の頭をレンチで固定しながら、反対側のナット(3個)をスパナなどで回して外し、ボルトを取り外します。



- 5 車軸ブラケットの取付位置を決め、ボルト(3本)とナット(3個)で取り付けます。座高を下げたい場合はブラケットの位置を上げ、座高を上げたい場合はブラケットの位置を下げます。

- 6 ドラムブレーキ装着車の場合は、ドラムブレーキを取り付けます。

*ドラムブレーキ内側の回り止めを車軸ブラケットにはめ込むとき、短い方のフックを上に向けてはめ込んでください。



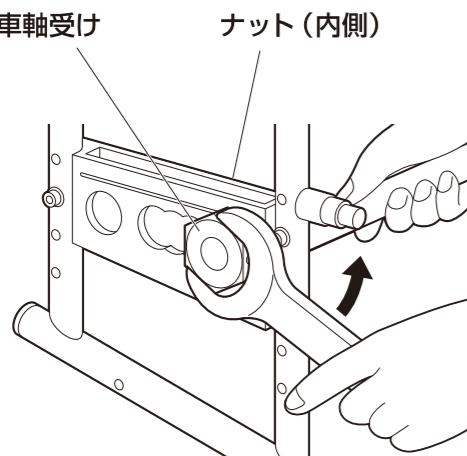
- 7 手順2と逆の要領で、駆動輪を車軸受けに差し込みます。
- 8 駆動輪ががたつかず、車軸ブラケットがしっかりと固定されていることを確認します。さらに、駆動輪が抜けないことを確認します。
- 9 反対側の車軸ブラケットの取付位置も同様に変えます。

● 駆動輪の前後位置を調節する

駆動輪の位置を前寄りに移動すると、小回りがきくなど車いすの動きが軽快になり扱いやすくなります。その反面、重心が後ろに移動するため転倒しやすくなりますのでご注意ください。

着脱車輪の場合

- 1 前項「座面の高さを変える」の手順2の要領で、後車輪を取り外します。
- 2 スパナ(30mm)2本を使用して、車軸受け(外側)を押さえながら、内側のナットを取り外します。



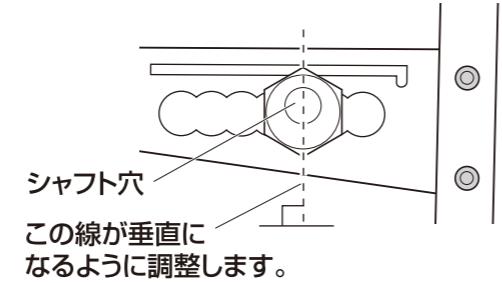
固定車輪の場合

電動ユニット装着の場合は、駆動輪の前後位置の調節は不可になります。

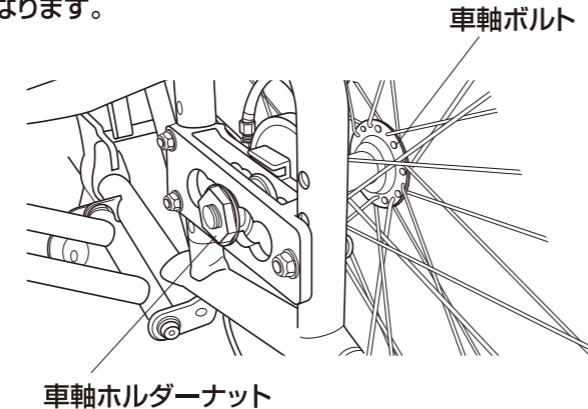
- 1 ①車軸ボルトをスパナ(19mm)で固定します。
②車軸ホルダーナット(27mm)をモンキースパナで緩めて取り外します。
③車輪を引き抜きます。
- 2 ドラムブレーキ(装着の場合)、スリーブ、固定軸用スリーブを取り外します。
- 3 車軸ブラケットの任意の位置にスリーブ、固定軸用スリーブをセットします。

- * 次に駐車ブレーキとキャスターを調節してください。(8ページ「ブレーキの調節」、11ページ「キャスターの角度を調節する」参照。)
- * 転倒防止バーを取り付けている場合は、転倒防止バーの位置を調節してください。(14ページ「転倒防止バーの位置調節」参照。)

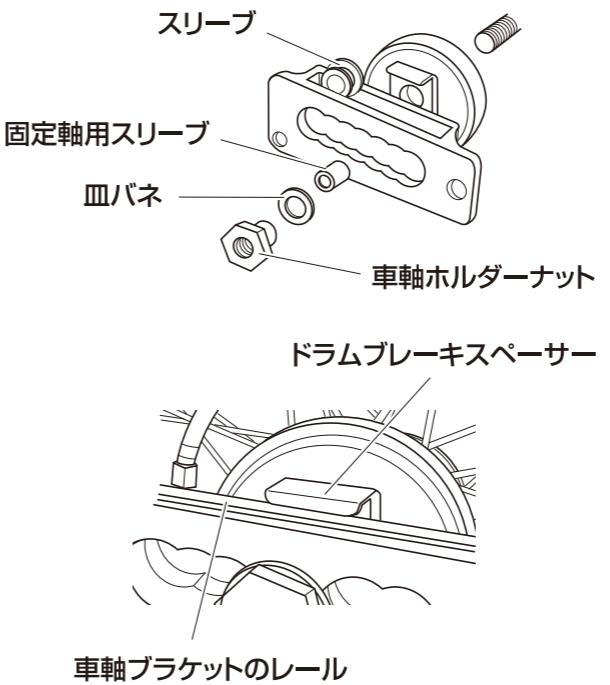
- 3 車軸受けの取付位置を決め、スパナ(30mm)2本で取り付けます。
* キャンバー付きの場合は、シャフト穴が外に偏っている側が真上を向くように車軸受けを取り付けます。



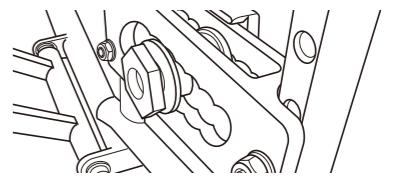
- 4 駆動輪を車軸受けに差し込みます。
- 5 駆動輪ががたつかず、車軸受けがしっかりと固定されていることを確認します。さらに、駆動輪が抜けないことを確認します。
- 6 反対側の車軸受けの取付位置も同様に変えます。
* 次に駐車ブレーキを調節してください。(8ページ「ブレーキの調節」参照。)



- 4 ①車軸にドラムブレーキをセットします。
(装着の場合)
②車軸ホルダースリーブに差し込みます。
* ドラムブレーキスペーサーの爪が車軸ブラケットのレールに引っかかるようにセットします。



- 5 皿バネ、車軸ホルダーナットを仮止めします。



- 6 ①車軸ボルトをスパナ(19mm)で固定します。
②車軸ホルダーナットをモンキースパナで締付けて固定します。

- 7 反対側も同様に行います。

* 次に駐車ブレーキを調節してください。(8ページ「ブレーキの調節」参照。)

● キャスターの角度を調節する

車軸位置を変更すると座角(フレームの前後差)が変わるために、キャスターの角度と合わなくなり適正な走行ができなくなります。車軸位置を変更したら、下記方法に従ってキャスターの角度を調節してください。

- 1 内側のナットをゆるめてからボルト(A)を、レンチとスパナを使用してゆるめます。

- 2 ボルト(B)を、レンチを使用してゆるめます。

- 3 キャスター軸が垂直となるように、ラックの角度を調節します。

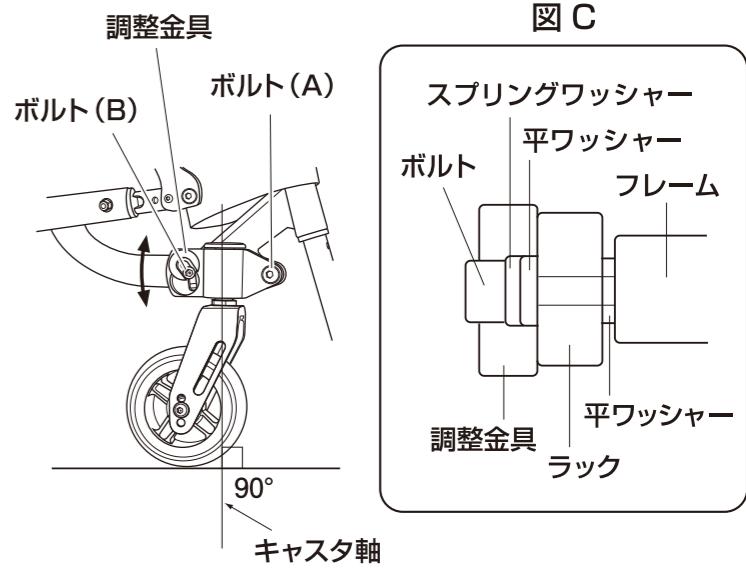
* 垂直にできない場合は、調整金具を一旦取り外し、もう一方の溝にはめこんで調節してください。

この時、ワッシャーの入れ忘れにご注意ください(右図C参照)。

- 4 ボルト(A,B)をしっかりと締めた後、内側のナットを固定します。

* 調整金具がラックの溝に収まっていることを確認してください。

- 5 反対側のキャスターも調節します。



フットサポートの高さ・前後位置・角度調節

使用者に合わせて、ステップの高さ・前後位置・角度を適切に調節してください。

* フットサポートは左右とも同じく調節してください。

* 調節する前に、駐車ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

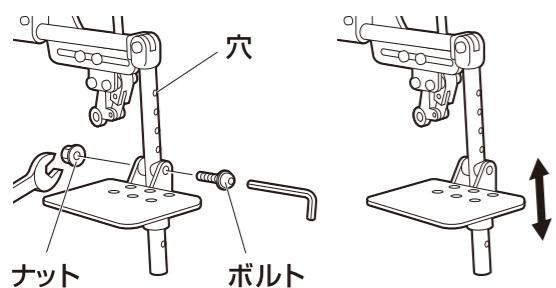
* 調節後、フットサポートがしっかりと固定されていることを確認してください。

高さ調節のしかた

高さを9段階に調節することができます。
(20インチ仕様の場合は、130mm~290mmまで
20mm間隔で調節できます。)

1 ボルトの頭をレンチで固定しながら、反対側のナットをスパナなどで回して外し、ボルトを取り外します。

2 フットサポートを適切な高さに調節し、ボルトを通す穴を決めます。
* 穴は9個あります。

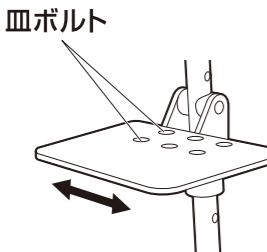


3 手順2で決めた穴にボルトを通して、ボルトの頭をレンチで固定しながら、反対側のナットを締め付けて固定します。

4 もう片方のフットサポートも同じ高さに調整します。

フットサポートの取付位置調節のしかた

皿ボルト(2本)を取り外し、フットサポートが適切な位置になる穴に皿ボルト(2本)を取り付け、締めます。

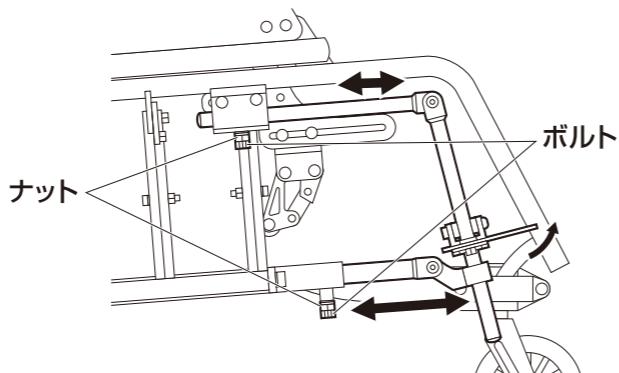


前後位置と角度の調節のしかた

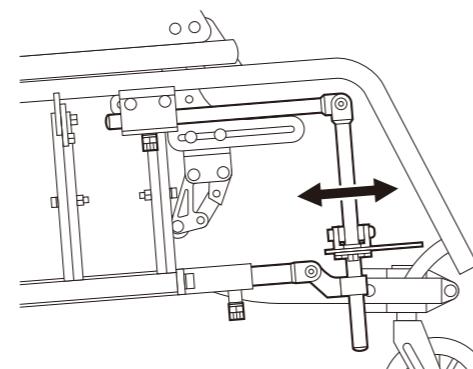
1 図の上下のボルトとナットを、ナット→ボルトの順にゆるめます。

2 上下のフレームを前後に動かし、適切な位置に調節します。

* フットサポートの角度は、上下フレームの位置関係によって決まります。



* フットサポートの角度を変えずに前後位置のみ変える場合は、上下フレーム同じ長さだけ調節してください。



3 調節を終えたら、ボルト→ナットの順に締めて上下のフレームを固定します。

● ワイドフットサポートの場合

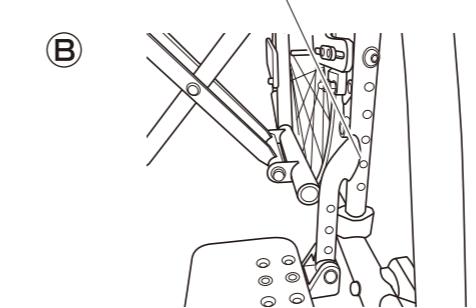
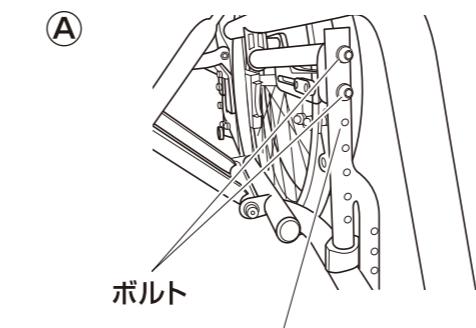
使用者に合わせて、フットサポートの高さと取付位置を適切に調節してください。

調整後にフットサポートがしっかりと固定されていることを確認してください。

設定位置によってフットサポートポストを左右で組み替える必要があります。

下の表を参考にして、設定したいフットサポート高により、ⒶパターンもしくはⒷパターンにフットサポートポストを組み替えてください。

フットサポートポストの左右組み替えのしかた



1 両側計4カ所のボルトを六角レンチなどを使って取り外します。

2 ①両側のフットサポートポストを取り外し、左右を入れ替えてくみつけます。

②ボルトを六角レンチなどで締め込み、フットサポートポストを固定します。

3 適合する任意の位置にフットサポートを取り付けます。

フットサポートが重なり合わないように左右方向の位置を微調整してください。

フットサポートポストの向き	フットサポート長
Ⓐ	130/150/170/190/210
Ⓑ	230/250/270/290

高さ調節、フットサポートの取付位置調節は12ページ「フットサポートの高さ・前後位置・角度調節」の要領でおこなってください。

バックサポート(背もたれ)の角度調節

サイドガードにはバックサポートフレーム取付穴が3箇所あります。この取付穴を変えることで、バックサポート(背もたれ)の角度を3段階(85度、90度、95度)に調節することができます。

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 ボルト[A](2本)をゆるめます。

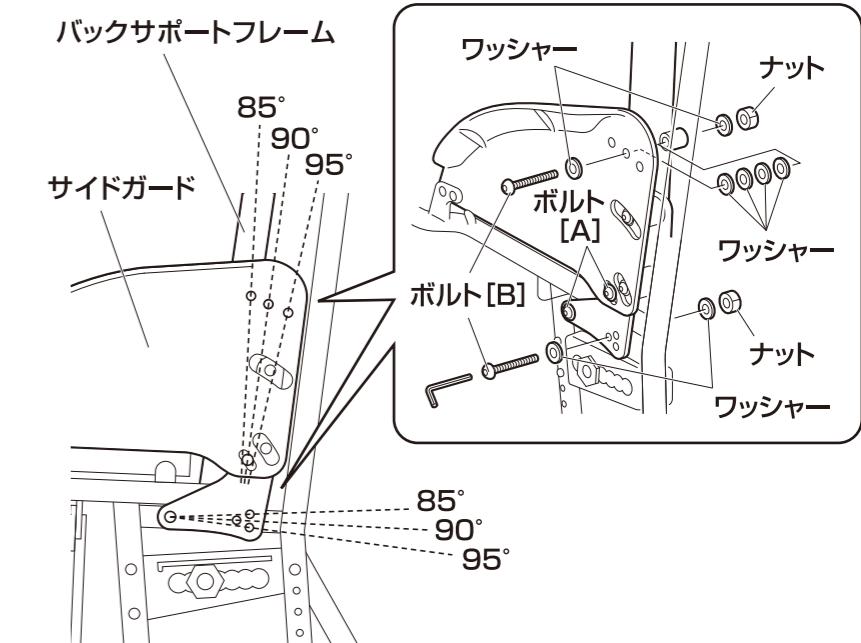
3 ボルト[B](2本)の頭をレンチで固定しながら、ナット(2個)をスパナなどで回して外し、ボルト[B](2本)を取り外します。

4 変更したいバックサポートの角度に合わせて、取付穴を決めます。

5 穴を決めたら、サイドガード側からボルト[B](2本)を差し込み、ナット(2個)をしっかりと締め付けて固定します。

6 ボルト[A](2本)を締め付けます。

* 反対側も同じく調節します。



転倒防止バーの位置調節

オプション

転倒防止バーの高さおよび前後位置を調節することができます。

* 座面の高さを変えたときは、必ず転倒防止バーの位置調節を行ってください。

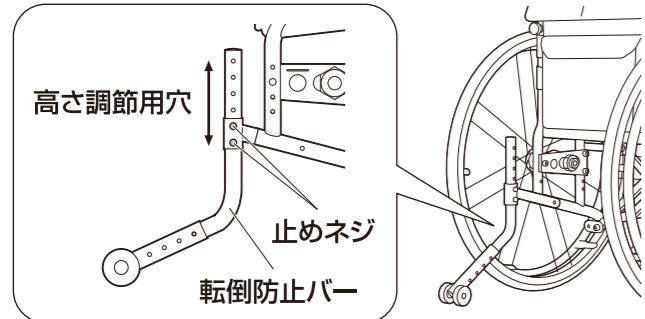
* 転倒防止バーは左右とも同じ高さ、同じ前後位置に調節してください。

● 転倒防止バー(固定式)

高さ調節のしかた

高さ調節用穴(6箇所)を使用して調節します。

1 止めねじ(2本)を、レンチを使って取り外します。



2 転倒防止バーを適切な高さに調節し、止めねじ(2本)を取り付ける穴を決めます。

3 手順2で決めた穴に、止めねじ(2本)をレンチで取り付けます。

4 もう片方の転倒防止バーも同じ前後位置に調整します。

● 転倒防止バー(格納式)

段差を越える際に転倒防止バーがじゃまにならないように、内側にたたむことができます。

座面高、使用者の身体状況にあわせて転倒防止バーの高さを調節することができます。

△注意	<ul style="list-style-type: none"> 操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけ、平坦な場所で行ってください。 転倒防止バーは左右とも同じ高さに調節してください。 座面の高さおよび駆動輪・主輪の前後位置を変えたときは、必ず転倒防止バーの高さ調整を行ってください。
-----	--

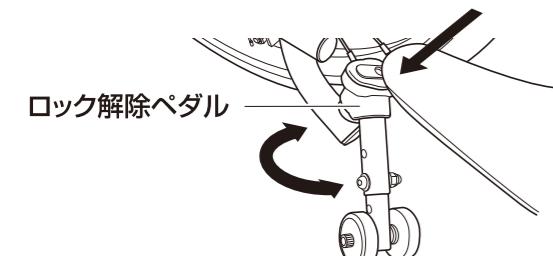
格納のしかた

ロック解除ペダルを踏み込みながら、内側前方に向かって回転させます。

展開のしかた

①転倒防止バーのロック解除ペダルを踏み込みます。
②内側後方に向かって回転させます。

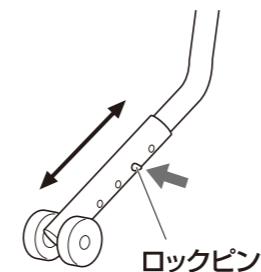
* 転倒防止バーがロックされているか、ご確認ください。



前後位置調節のしかた

前後位置調節用穴(4箇所)を使用して調節します。

1 ロックピンを指で押し込み、転倒防止バーを前後にスライドさせて適切な位置に調節し、ロックピンで固定する穴を決めます。



2 手順1で決めた穴をロックピンで固定し、確実に固定されたことを確認します。

3 もう片方の転倒防止バーも同じ前後位置に調整します。

バックサポート(背もたれ)の張り具合調節

バックサポートにはテンション式背シートを装備しております。テンション式背シートの張り具合を適切に調節することにより、バックサポートが使用者の体にフィットし、疲れにくく安定した姿勢を保つことができます。

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

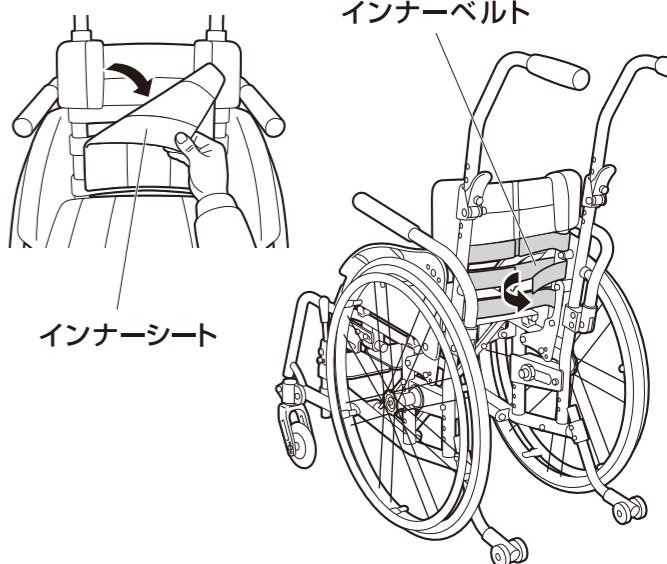
2 アウターシートを外し、次にインナーシートのマジックテープをはがします。

3 下から上の順に、インナーベルトのマジックテープを貼り直してベルトの張り具合を調節します。

* アンカーサポート機能のついたクッションと合わせて使用すると、より姿勢保持の効果が得られやすくなります。

* 過度の調節(ゆるめすぎ、締めすぎ)はかえって姿勢を崩すことになりますので、十分注意して行ってください。

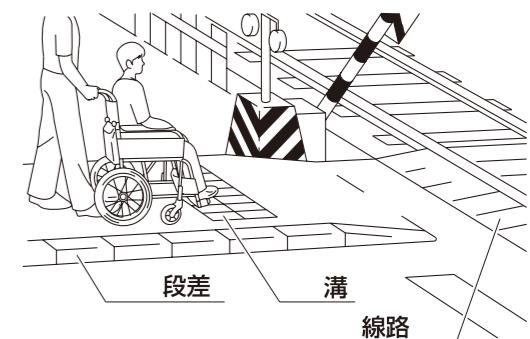
* リハビリセラピストまたは販売員のアドバイスを受けられることをお奨めします。



使用上のご注意

走行上のご注意

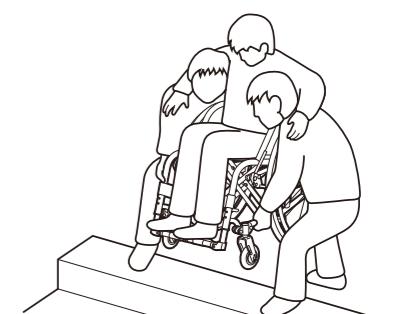
- 車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- 歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- 溝や踏切の線路による落輪、キャスターのはさみ込みには充分注意してください。
- 踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- 傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。
- エスカレーター(車いす対応エスカレーターは除く)や、傾斜のある動く歩道(オーストローブ)での使用は、絶対に行わないでください。
- 公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。



車いすの持ち上げかた

△警告

車いすを持ち上げる場合は必ずフレームを持ってください。駆動輪のスポーク等を持って持ち上げると、車いすの破損や落下、転倒による事故につながる恐れがあります。



車いすに乗ったまま持ち上げる場合

車いすに乗ったまま吊り上げるときは二人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側から持ち上げるようにしてください。

* 使用者の両腕をそれぞれの介助者の肩にかけると、持ち上げる際の介助者の負担が軽くなります。